

日吉台新聞

HIYOSHIDAI

平成30年4月1日

発行

日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会

発行責任者

林 堅 太 郎

編集責任者

村澤 真保呂

題字は

4丁目11-2

梶谷 清苑さん

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

園舎取り壊し再公募

市・認定こども園設置問題

開園は33年春

日吉台学区で、認定こども園を設置する昨秋の天津市の事業者公募は、名乗りを挙げる事業者がなく不調に終わったが、同市は、幼稚園現園舎を公費で取り壊し、更地とした敷地を賃貸とする新たな公募条件で事業者を募る方針を明らかにした。

不調に終わった1回目の公募条件は、現園舎を設置事業者に売却、敷地を賃貸とする方式だった。しかし認定こども園開設にあたっては、園舎買収

費ほか、給食調理室の新設、老朽園舎の抜本的改修など過大な投資を強いられることが懸念材料となり、設置法人側が進出に二の足を踏んだものとみられる。

新たな公募方針は、2月26日同幼稚園で開いた幼稚園保護者説明会で明らかにし、新方針の今後のスケジュールを示した。

市の説明によると、公募方針の変更は2点。現日吉台幼稚園園舎は、建築後30数年を経過しており、現園舎建物のアスベスト調査などを経て市費で撤去工事を実施。更地とした敷地を設置法人に賃貸とする。賃貸料についてはさらなる軽減対策を検討する、というもの。新たな公募条件による

今後のスケジュールは、30年度で、現園舎解体工事設計を行い予算化、31年度で解体工事と設置法人公募を行い、設置法人による園舎建築工事を経て33年4月オープン予定。日吉台幼稚園を転換して民間による認定こども園設置計画は当初、最速で31年春の開園を予定したが、第1回目の公募が流れたことで開園予定は最速で当初より2年遅れることになる。現日吉台幼稚園児は今年4月から市の通園バスで隣接の坂本幼稚園に通い、同幼稚園との合同保育となり、日吉台幼稚園は、事実上閉園となり、37年の歴史に幕を降ろす。

新感覚の災害訓練、避難所運営ゲーム

本番に備え学区民熱気



本番に備え真剣に避難所運営ゲームに取り組む学区民

（HUG）を行った。避難所運営ゲームは、災害時、要援護者に配慮しながらみんなで避難所の部屋割りを考えたり、炊き出し場や仮設トイレなどの配置、視察や取材対応など避難所での出来事に参加者が意見を出し

合ってゲーム感覚で避難所運営を習得できる新感覚の災害訓練。11日午前11時、学区北東5キロを震源地にマグニチュード8・0の巨大地震が発生、電気、ガス、水道、電話などライフラインが壊滅、住民が避難

所の日吉台小学校に続々と避難してきたという想定。学区民ら約90人が参加した訓練は、各グループごとに分かれ、読み手が避難者の名前、年齢、個別事情を記載した想定カードを読み上げスタート。参加者全員が協力しながら話し合い、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に通路を確保しながらさまざまな想定事項を配置した。最初はゲームに戸惑いを感じていた参加者らも、慣れるにしたがい多くの声飛び交い、笑顔の中に緊張感が伴いゲームが進行した。

避難所運営ゲームに池田進学区自主防災会副会長は「ゲームではあるが人との対応は大変だ。災害があつた場合、冷静な対応が求められる。この訓練の経験を今後に役立てて欲しい」と講評した。

ちよこつとボランティア募集

日吉台小コミュニティスクール

日吉台小学校運営協議会（濱崎博委員長）と日吉台小は、コミュニティ・スクール事業として地域や父母らの協力で、子どもたちの学習支援や活動を支える「ちよこつとボランティア」事業を始めることになり、協力者の登録を募っている。

「ちよこつとボランティア」の活動は「児童教育

活動支援」▽「読書環境の整備等」▽「学校行事等の支援」▽「マナ☆ビバの支援」の4種。児童教育活動支援は、ミシン操作や裁縫の学習活動の補助や音読発表、掛け算の九九練習の聞き手の学習支援。

読書環境の整備は、お勧め読書本の紹介、返却された図書を正しい場所

に戻す図書整理、傷んだ本の修理や図書委員児童の補助など。行事等の支援は、入学式、卒業式、運動会の準備など。マナ☆ビバの支援は、冒険☆アソビバ、学校で泊まるうき屋プロジェクトの応援作業などを予定している。同小では、ボランティア

ア参加希望者は登録制とし支援が必要な場合に学校から出勤依頼がある。登録希望、問い合わせは同小（579・5033）。コミュニティスクールは、保護者、地域、学校がいっしょになって子どもにどのような力を育むか、何を実現したらよいのかなど目標やビジョンを考え共有する学校。それらの目標を実現するため一緒に子どもたちを育てる教育活動を進める。これら目標、さまざまな活動を考える場「学校運営協議会」を設置した学校をいう。

市、植栽計画を示す

バス通りなどの街路樹伐採で

天津市が今年1月、学区内の街路樹を伐採した問題で、同市はこのほど、伐採後の植樹計画を明らかにした。

同市道路・河川管理課は今年1月、3丁目と4丁目のバス通りに植栽してある街路樹、プラタナス（すずかけ）35本の伐採計画を学区自治連に通告してきた。市によると、学区に植栽してあるプラ

たところ、樹木の根部分に腐食がみられる木、35本が見つかった。このまま放置すれば倒木の恐れがあり危険と判断したという。同じ学区の1丁目、2丁目にも街路樹が植えられるが、樹木の種類が異なり今回は調査の対象外という。

3丁目、4丁目のメイラタナスは95本。学区住宅地開発直後から植栽

されていて老木化、これまでに枯死し、散発的に伐採されてきたが、35本という大量の伐採は初めて。学区自治連として、危険回避の点も考慮、伐採後の植栽計画を明らかにすることを条件に伐採はやむなしとした。

市によると、伐採した跡地に従来から植えられてきたプラタナスの若木を年次的に植栽、植栽箇所については学区自治連と協議するとした。プラタナスについては、住民の間でもさまざまな意見があり、今後協議して市に回答する。



ありがとう日吉台幼稚園

事実上の閉園、37年の歴史に幕



最後の修了式を終え記念撮影する園児と保護者ら

日吉台幼稚園（寺田賀寿代園長）の第37回修了式は、市による認定こども園への転換計画で新年度、園児らは隣接の坂本幼稚園と合同保育となるため同園は事実上の閉園となり、この日が同園最後の修了式、37年の幼稚園の歴史に閉じた。

名残り惜しんで歌、園庭に響く

感謝の集いと最後の修了式

最後の修了園児は4人。幼稚園歌から始まり、来賓や保護者を前に寺田園長から一人ずつ名前を呼ばれ、「はい」と元気よく返事をし、修了証書が手渡された。

寺田園長がこの1年間の出来事、忍者日吉丸の弟子が来園、運動会での活躍、さらさらステージでの自信を持った演技など、「げんき、やるき、こんき、ほんき、みんな大好き」の5つの「き」を見せてくれた事を紹介。



ありがとうの会で見事な演技を披露する先輩の日吉台小児童ら

3・4歳児が「おわかれのうた」。修了児が「ありがとう さようなら」「さよならばくたのうちえん」を精いっぱい歌い、来賓、保護者、先生らが「思い出のアルバム」を歌って修了式に花を添えた。



みんなと一緒に木琴を演奏するマリンバ奏者の高木真稚恵さん

最後に、1年間の園生活を送る紹介、みんなでその思い出を振り返りながら保護者達にはわが子の成長を感無量の思いで見守っていた。

同園は、昭和56年4月創立。58年のピーク時には、7クラス園児数22

3人を数えたが、学区の少子高齢化で園児数が減少、この日を迎えるに至った。37年の歴史で巣立った園児は1307人、最年長世代は、40歳代前半、中堅世代の仲間入りを果たし活躍し始めている。

37年の幼稚園の歴史に感謝する「日吉台幼稚園ありがとうの会」（同幼稚園PTAらによる実行委主催）が、この日午後、越直美市長、西田昌弘市福祉子ども部長ら多くの来賓を迎え開催。野々口義信自治連合会会長のあいさつに始まり、第1回の卒園児、森下容子実行委員長が、日吉台幼稚園に対するこれまでの思いや、地域の人たちへの謝辞を述べた。

このあと、日吉台小3年生らが「花笠音頭」で

日吉台小で卒業式



日吉台小の卒業式で勢ぞろいする卒業生

市立日吉台小学校（田中誠校長）の平成29年度第36回卒業式が3月16日、同小体育館で行われ34人が卒業、思い出の校舎を後にした。

卒業式は、蓮井敦日吉

田中校長が卒業証書を授与し式辞で「みなさんに卒業証書を渡しました。これは中学生になるパスポートです。中学生になったら目標に向け挑戦を続けて欲しい」とはなむけの言葉の言葉を送り、在校生の送る言葉のあと、卒業生らがかわるがわる学校の先生やお父さん、お母さん、祖父母らに感謝の言葉を述べ、「旅立ちの日に」を元氣よく斉唱、6年間の思い出の学校を後にした。